

[032]九州人類学会報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2339022>

出版情報 : 九州人類学会報. 32, 2005-07-16. Kyushu Anthropological Association
バージョン :
権利関係 :

編 集 後 記

今年もまた優秀な中西編集長のお陰で、皆さんのお手元に九州人類学研究会の会報『九州人類学 会報』をお手元にお届けすることができました。ご寄稿いただいた会員ならびに関係者の皆様にも深く御礼申し上げます。さて私事になりますが九人研の会長の任期2年を終えることになりました。また長年にわたり会報の編集に携わってこられた中西さんも任を終えます。この2年間における九人研の課題は、九州全域ならびに沖縄に会員の裾野を広げること、研究会による若手研究者の育成、日本文化人類学会と連携協力関係をさらに強化するということにありました。その目的が十分に果たされたとは言えませんが、研究会への参加人数や修士論文発表会などの演題数などからみると、よい方向に向かっているのではないかと思います。

私も中西編集長も九州を出て東の方角に旅立つわけですが、後ろ髪を引かれる思いが強くなります。全国で活躍されておられる諸先達の方々も、別れ際にはその思いは格別のものだったのではないかと想像します。そこで私からのささやかな提案なのですが、これまでの九人研の OG・OB の先生方の（再）開拓とくに財政的支援体制の早急な確立を訴えたいと思います。有名な私立大学が大きなイベントを開催する際に、同窓会が動いたり、卒業生の篤志家が支援を自ら申し出たりすることがよく報道されたりします。九人研もそのような歴史と風格を備えた組織になりつつあることを私はこの2年間の活動を通して感じ取ったつもりです。同窓会組織と同様、九人研もまた学術団体であると同時に、九州・沖縄地域における人類学研究の推進という夢を共有する友愛団体でもあります。是非とも、全国の OG・OB、それも多少財布に余裕のある諸先達の方々のノスタルジーをくすぐり(?)つつ、本会報がいつまでも若々しい活動を続けていることをお伝えするような媒体になるようお願いいたします。そうすれば研究会そのものの財政基盤も潤うでしょうし、(年齢ではなく研究への情熱が)若々しい研究者への支援体制の整備にも結び付くでしょう。文化人類学は金持ちを育てるような学問では決してありませんので、いきなり大富豪からの援助はありえないでしょう。しかしながら夢と希望をもつ学問だと私は楽観的に信じています。中西さんともども九人研の明るい未来を信じており、今度は九州の外から参画支援させていただくつもりですのでどうかよろしく願います。編集後記という場をお借りして両名の退任のご挨拶とさせていただきます(九州人類学研究会会長・池田光穂)。

| | |
|-------|--|
| 発行年月日 | 平成 17 年 7 月 16 日 |
| 発 行 者 | 池 田 光 穂 (研究会会長) |
| 編集委員会 | 中 西 裕 二 (編集長) |
| | 關 一 敏 |
| | 大 谷 裕 文 |
| 発 行 所 | 〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-19-1 九州大学文学部比較宗教学研究室内 九州人類学研究会 Tel. 092-642-2424, 4148 religion@lit.kyusyu-u.ac.jp |
| 印 刷 所 | (株) 昭 和 堂 〒812-0007 福岡市博多区東比恵 4-2-10 Tel. 092-471-8200 |